



能登やさしいこめづくり情報

防除・穂肥編

令和3年7月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
J A おおぞら

1 生育概況と当面の対策

- ・**能登ひかり**は、幼穂形成期に入りました。出穂期は、7月24日頃と近年に比べ1日程度早くなると見込まれます。
対策：中干しを終了し、飽水管理（下記参照）により、根の活力維持を図って下さい。
- ・**コシヒカリ**の葉齢展開からみた生育の遅速は、平年に比べ3日程度遅いと見込まれます。
対策：弱勢分けつ（遅く発生する穂にならない分けつ）の発生を抑えるため、中干しを7月10日頃までしっかりと実施して下さい。

2 水管理について

中干し後から出穂までの約1か月間の「飽水管理」の徹底

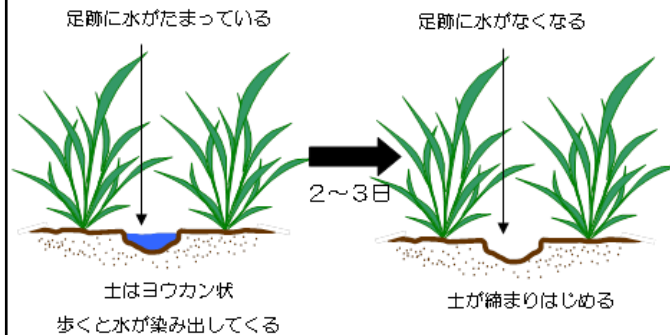
登熟を向上させ、未熟粒を出さないためには、**根を健全に保つことが重要**です。根の活力維持には、適期中干しに加え、中干し以降の**水管理が大きく影響**します。幼穂形成期（早生6月末、中生7月上旬）以降は新しい根の発生が少なくなるため、中干し終了後は2～3日間隔を目安に通水し**飽水状態**（下図）を保つことで、**根の活力維持**を図りましょう。

出穂・開花期は最も水が必要

出穂期および開花期の前後は稲が生理的に十分な水を必要とする時期です。そのため、**圃場の水を絶やさない**ような管理を注意して行う必要があります。

※このとき圃場に入れておく水は「花水」とも呼ばれています。

【飽水管理とは・・・】
ほ場表面に水はないが、足を踏み入ると水が染み出てくるような水分状態を維持する水管理



飽水状態

要通水!!

異常気象時の対応

✓フェーン現象（台風に伴う高温等）が予想される場合は一時的に湛水することで稲体を保護し、現象が治まり次第排水しましょう。

3 斑点米の発生防止対策について

今年も最高水準にカメムシが発生中

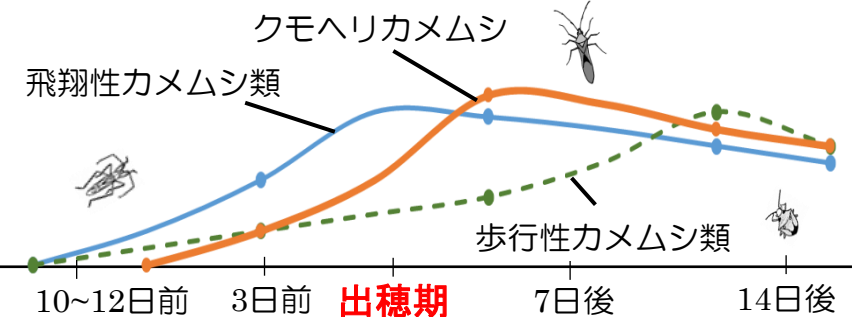
- ・斑点米カメムシの生息調査（奥能登地区2市2町・34地点、6月23～24日）の結果、1地点あたり8.3頭の生息数が確認されました。今回の調査では除草が比較的なされ畦畔管理されていたものの、この結果は、過去10カ年において、**昨年に次ぐ最高水準の捕獲頭数**となっています。
- ・本年は、管内の全地域で飛翔性の斑点米カメムシ類が多く確認され、特に**アカスジカスミカメ**が**6.7頭**と近年平均値2.2頭の3倍程度の頭数が捕獲されました。また、近年、県内中山間地で増加している吸汁力の強いクモヘリカメムシも昨年に引き続き確認されています。



アカスジカスミカメ

7月4～10日
一斉草刈り強化週間

今後とるべき対策



除草期間	防除期間
	粒剤防除
	粉剤防除
	液剤防除

10～12日前 3日前 出穂期 7日後 14日後

粒剤防除: 1回目 (10日前), 2回目 (7日後)

粉剤防除: 1回目 (3日前), 2回目 (7日後), 3回目 (14日後)

液剤防除: 1回目 (3日前), 2回目 (7日後), 3回目 (14日後)

- ①斑点米カメムシの生息数を減らすため、**7月4～10日の一斉草刈り強化週間に仕上げ除草**を実施しましょう。
- ②カメムシ類は稲の出穂に合わせてほ場へ侵入するため、**適期に防除し、カメムシ被害を防ぎましょう。**
※飛翔性カメムシと歩行性カメムシでは侵入時期が異なるので、**数回に分けて防除する**必要があります。

例)

- ・粒剤は出穂前1回、出穂後1回の計2回
- ・粉剤と液剤は出穂前1回、出穂後2回の計3回

防除体系について（詳細）

（1）粒剤体系（7月24日に出穂した場合）

回	病虫害	薬剤名	成分数	散布量 (10a当り)	散布時期 (能登ひかり)	摘要
1回目	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類	トレバリダビーム 粉剤DL	2	4kg	7/20~22頃	出穂始め（走り穂）
2回目	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	ラブサイドキラップ 粉剤DL	2	4kg	7/31~8/2頃	出穂7日後防除
3回目	ウンカ類 イナゴ類 カメムシ類	キラップ粉剤DL	1	4kg	8/7~10頃	2回目から7日後 (出穂期から14日後)

※粉剤は防除効果を高めるため、風の無い時間帯を見計らい、散布後3~4時間は降雨がない日に散布する。

（2）液剤体系（7月24日に出穂した場合）

回	病虫害	薬剤名	成分数	希釈倍率	散布量 (10a当り)	散布時期 (能登ひかり)	摘要
1回目	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類	ビームエイト トレボンゾル + バリダシン液剤5	2 0	650倍 1000倍	100L	7/21~24頃	出穂始め (走り穂)
2回目	カメムシ類 ウンカ類	キラップ フロアブル	1	1000~2000倍	60~200L	7/31~8/2頃	出穂7日後 防除
3回目	カメムシ類 ウンカ類	キラップ フロアブル	1	1000~2000倍	60~200L	8/8~11頃	2回目から 7日後

（3）粒剤体系

回	病虫害	薬剤名	成分数	散布量 (10a当り)	摘要
1回目	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	イモチエースキラップ 粒剤	2	3kg	出穂12~14日前に散布 (散布後7日間の湛水)
2回目	ウンカ類 カメムシ類	キラップ粒剤	1	3kg	出穂3~7日後に散布 (散布後7日間の湛水)

4 穂肥について

穂肥の「適期」「適量」施用で未熟粒の発生防止!!

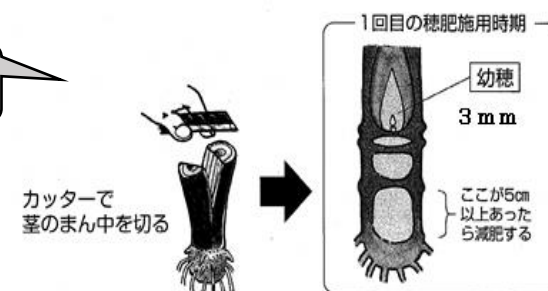
『能登ひかり穂肥時期の目安』

*出穂日(予想)は、今後の気象条件等で前後する可能性あり

肥料名	回	施用時期(出穂前日数)	10a当りの施用量		葉色	出穂日* (予想)	幼穂長 (施用基準)
			出来すぎ	標準			
追肥 550号	1回目	7月5日頃(20日前)	0~7kg	10kg	4.0	7月24日	3~5mm
	2回目	7月15日頃(10日前)	15~20kg		—		—

※基肥一発肥料（BB早生一発くんDX28）を施用したほ場では、原則、穂肥を施用する必要はありません。

幼穂長の確認方法



『コシヒカリ穂肥時期の目安』

肥料名	施用時期(出穂前日数)	10a当りの施用量 標準	葉色	出穂日* (予想)	幼穂長 (施用基準)
BB有機入り 能登穂肥一発	7月19日頃(16日前)	20~30kg	3.5	8月3日	15mm
BB能登みのり	1回目	7月19日頃(16日前)	3.5		15mm
	2回目	7月25日頃(10日前)	10~15kg		—

※生育過剰（茎数が多く、葉色が能登ひかり:4.0以上、コシヒカリ:3.5以上）のほ場では、1回目の施用時期は遅らせず、量を減らし、2回目は出穂10日前に基準量を施用して下さい。

5 随時防除の実施

病虫害名	薬剤名	成分数	散布量 (10a当り)	摘要
稲こうじ病 墨黒穂病	Zボルドー粉剤DL	0	4kg	【予防剤】近年発生したほ場では、出穂14~10日前に散布

※出穂10日前以降は薬害の恐れがあるので散布しないこと

【農薬の適正な使用について】ラベルに記述してある使用方法以外の使い方をすると法律で罰せられます。安心・安全な農産物を提供するという気概を持ち、使用方法は厳守して下さい。